

ユネスコESD世界会議の報告

国連大学のかかわり

担当セッション「Accelerating Local Level Actions」を中心にした所感3点

まとめと余談

国連大学のかかわり

Day2: フィリップ・ヴォーター「Education for SDGs Market Place (Part II)」でのバーチャルブース展示 ライブセッション・気候変動教育における課題

Day3: ジョンヒ・パク「ESD in Higher Education（高等教育におけるESD）」 高等教育機関が地域を持続可能にする上で果たす役割（RCEsを事例に）発表

Day3: 野口扶美子「Accelerating Local Level Actions（地域での活動の促進）セッションモデレーター

Accelerating Local Level Actions 優先行動分野5 セッション

ドイツ・マンハイム市副市長

韓国統営RCEの代表

ブルキナファソ環境省持続可能な開発・グリーンエコノミー・気候変動セクション担当官（キャンセル）

インドNGO Community Connect 副代表

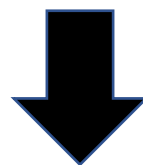
金沢大学教員

ユネスコ石見銀山ビデオ

<https://youtu.be/ACfvGjkxCSM>

所感① 脱「教育＝学校（公教育）」の兆し？

「地域」が「公教育のESD」に貢献

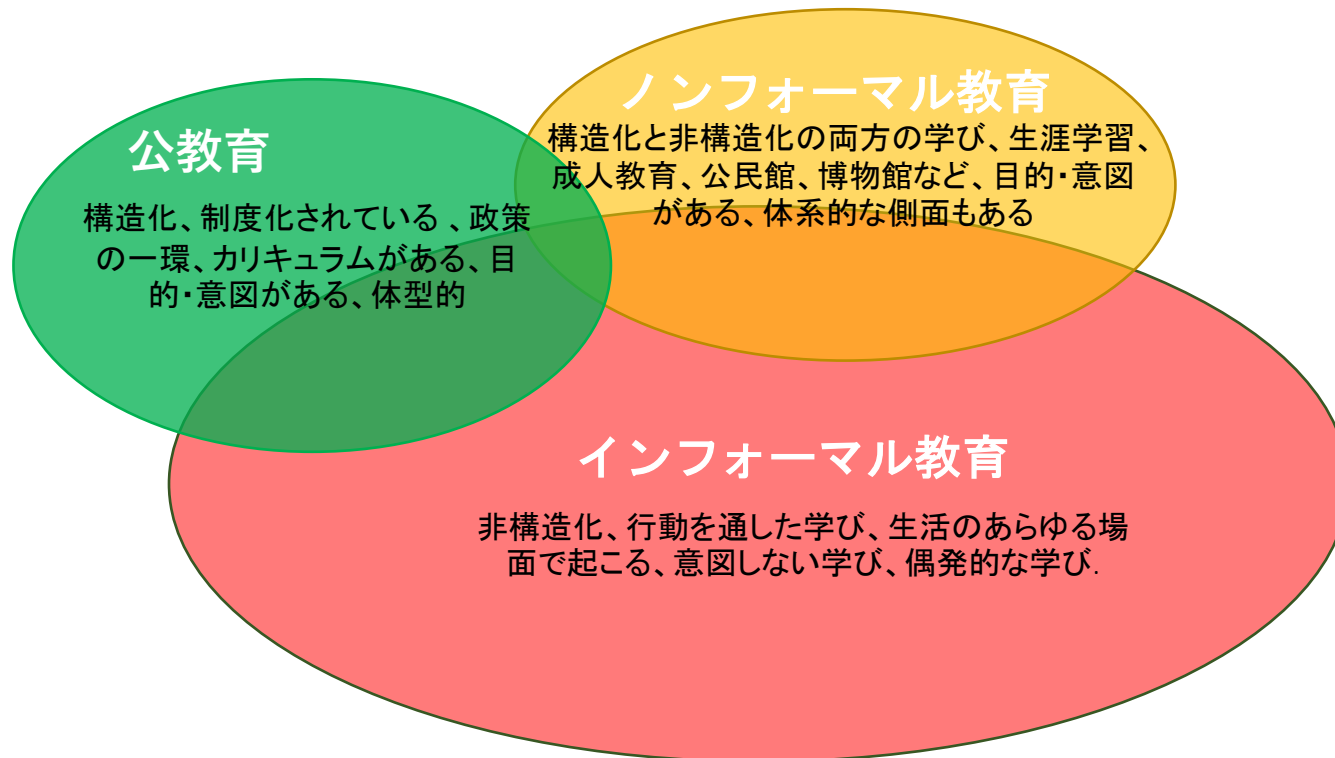


「公教育機関」が「地域社会の一員」として地域のESDに貢献

所感② 「地域の視点から教育論を構築するプロセス」の芽生え

二つのタイプの地域に根ざしたインフォーマルなESD

1. （受動的・やや能動的）地域に埋め込まれた学びのプロセス
2. （積極的・能動的）課題解決に参加・働きかける中にある学びのプロセス



所感③ 「地域におけるESDの概念・理論整理」をどうするのか？

「なんかいい、感動する取組」の寄せ集め

- 「ばくっと」していて、何がどういいのかがわからず、参考になりにくい
- 政策立案の裏付けになりにくい
- 実在しないエデンの園：美化しがち

実践者との議論とエビデンスに基づく研究の積み重ねを政策へ

- 「地域の知」「地域の学び」が近代的なものとのど
う異なりどついう関係性（パワーバランス）の中
に位置づくるのか
- 既存の教育論・持続可能な開発の議論・研究とど
う関連するのか

地域の視点から広くESDを議論する素地が（やっと）政治的なプロセスの中でできてきた

- 学校・公教育はそれでも中核
- 学校・公教育以外の人生ずっと続く学びのプロセスは持続可能な開発の実現に大きなインパクト

学校的な教育的視点を当てはめて、教育論を狭めてしまうのではなく、教育を地域の視点から拓く・起こす議論を今後展開していくことは、SDGsの実現を考えていく上でも重要